



病診連携通信

第 21 号

公益財団法人
湯浅報恩会
寿泉堂総合病院
平成30年1月

放射線治療の役割が大きくなっています

平成23年にトモセラピー（図1）を導入して以来、多くの患者様をご紹介いただき、深く御礼申し上げます。

トモセラピーの特徴は、従来の放射線に比べ高線量の放射線を病巣へ集中できること、周囲臓器への線量を最小限に抑える強度変調放射線治療（IMRT）を行えることであり、少ない副作用で、最大限の治療効果を得ることが可能となりました。

図1 トモセラピー

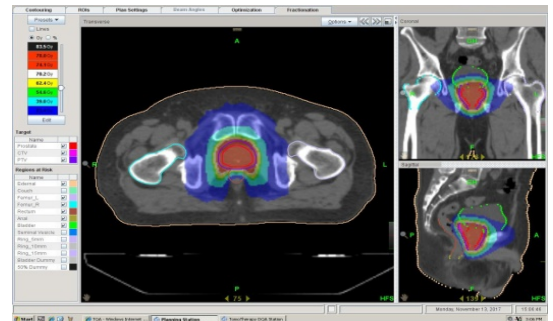


図2は前立腺癌に対する線量分布図の一例です。現在では、前立腺癌に関しては、ホルモン療法との併用により、手術と同等の治療効果が期待できるとされており、放射線治療の役割が大きくなっております。当院におきましても、高齢の患者様や、併存疾患のため観血的治療が困難な患者様、また手術を希望されない患者様等、病状やご希望を患者様、ご家族と相談しながら、選択肢の一つとして提供させていただきます。

図2 前立腺癌に対する線量分布図

図3に、年度別、部位別の患者数の推移を、図4に、おおよその治療期間を示しております。

遠方の方や、連日の通院が難しいといった患者様の場合には、各診療科医師が主治医となって入院治療とさせていただきます。治療計画の作成や効果判定は毎週水、木曜日に福島県立医科大学および山形大学から派遣される専門医が担当し、その他の曜日における外来診療は、各診療科の医師が行います。



また、治療終了後も、紹介していただいた先生方と連携を図りつつ、患者様の経過をfollowさせていただくことを前提にして治療を行っております。治療の対象となる患者様がおられましたら、各診療科にご紹介くださるようお願い申し上げます。
(泌尿器科：千葉茂寿)

図3 部位別実績

入外区分	2014年		2015年		2016年		2017年(～10月)	
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来
脳中枢神経	5	1	2		3		3	
頭頸部	9	2	6	1	3		3	1
肺・縦隔	2				2			
乳腺		6	1	15		25		8
食道	1	2	1		4	1	1	2
消化管	1	3	2	1	1	2	1	1
リンパ・造血器	4	1	2		2	1	2	1
前立腺	8	14	12	32	16	43	12	31
膀胱		1	1	3	10	3	3	
子宮・卵巣						1		2
骨	6	3	8	4	10	1	9	1
皮膚・軟部				1				5
その他		2				1		1
計(件)	36	35	35	57	51	78	34	53
合計(件)	71		92		129		87	

図4 治療期間・治療回数（2014～2017実績より）

	治療期間(日)	治療回数(回)
脳中枢神経	2週間～1.5ヵ月	10～33
頭頸部	1～2ヶ月	25～35
肺・縦隔	2週間～1.5ヵ月	10～30
乳腺	約1.5ヵ月	25または30
食道	1～2ヵ月	20～35
消化管	2週間～1.5ヵ月	10～30
リンパ・造血器	2週間～2ヵ月	10～35
前立腺	約2ヵ月	35～39
膀胱	約1.5ヵ月	30～35
子宮・卵巣	1～1.5ヵ月	20～35
骨	2～4週間	10～20
皮膚・軟部	1～1.5ヵ月	20～35

寿泉堂総合病院では地域医療支援病院として病診連携を推進しています。

患者さんのご紹介や外来診療に関するお問い合わせ

寿泉堂総合病院 地域連携室

☎024-927-0760（直通）または

☎024-932-6363（代表）にお願い致します。